

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成25年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(1/9)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの 平均値に IIIを加味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
あわじ環境未来島特区(兵庫県等)	正	A 5.0	A 4.6 進捗度 ・エネルギー(電力)自給率 100% ・新規就農者数 129% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 128% 等	A 4.9 規制の特例等 ・太陽光発電施設に係る電気主任技術者の選定要件の緩和等 財政支援等 ・離島・漁村における直流技術による自立分散エネルギーシステム技術の実証研究等 地域独自の取組 ・公募提案型重点分野雇用創出事業等	+0.75	<p>・エネルギー自給率の増加や就農者の増加など、事業主体が意図する地域活性化の方向性が着実に具体化されている。</p> <p>・多種多様な事業(※1)を積極的に活用し、全体として一定の効果を挙げつつある点が評価できる。</p> <p>・25年度の取組みとしては、<u>定量可能な評価についてはほぼ目標を達成しているが、農業や人口に関わるものなど定性的評価になるものは、やや目標を下廻っている(※2)。</u></p> <p>・エネルギー自給率を高めた後の淡路島の目指すべき姿をもう一度検討していただきたい。そのことによって定住人口の増加のための方策が見えてくるのではないだろうか。</p> <p>(※1)バイオマス発電、太陽熱発電、潮流発電、洋上・陸上風力発電、太陽光発電、耕作放棄地活用、就農支援、薬草栽培、高齢者にやさしい持続交通システム、漁船の電動化・ハイブリッド化等</p> <p>(※2)一戸当たり農業生産額の目標等について定性的評価が行われているが、「島内農協の野菜の年間販売高」÷「出荷件数」でみると、平成25年度は対前年度比95.1%となっている。また、定住人口についても対前年度比99.5%であったと報告されている。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。
(注)「総合評価」は5.0を上限とする。

*2)「III」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。